令和５年度　司書補講習　講義概要(シラバス)

生 涯 学 習 概 論

講師　西村（にしむら）　美東士（みとし）

講義概要・授業計画　生涯学習とは、個人が自己のものの見方・考え方を生涯にわたる学びによってより発展させ、暮らしや仕事を充実させる自己決定の活動である。同時に、今日では、人々がたがいに学びあい、 支えあうことによって、地域や社会を形成する相互関与の活動としての側面が注目される。

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示）では、「利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するレファレルサービスの実施に努めるものとする」とし、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するよう求めている。

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成 30 年中教審答申）では、次のように「地域住民の情報拠点、交流拠点」としての機能強化が期待されている。「今後は、一人一人の人格を陶冶し、人生を豊かにする読書や調査研究の機会を提供する役割を強化するとともに、『社会に開かれた教育課程の実現』に向け、学校との連携の強化や、商工労働部局や健康福祉部局等とも連携した個人のスキルアップや就業等の支援、地域課題の解決や地域の先駆的・主体的な取組の支援に資するレファレンス機能の充実など、地域住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割の強化が求められる。さらには、まちづくりの中核となる地域住民の交流の拠点としての機能の強化等も期待される」。

過去には、図書館（司書）と社会教育（主事）とは、同じ社会教育の仲間でありながら、前者の個人尊重と後者の社会形成重視の考え方がぶつかってきたこともある。だが、今日の個人化社会においては、両者とも、個人としての充実と、社会の一員としての役割発揮による充実を、一体化して進める必要がある。

本講義においては、このような視点から、人々の暮らしと仕事に根ざしたニーズを理解する。また、これらの学習をつなげ、広げ、深めるような支援のあり方を明らかにする。

アドバイス　講義を聴きながら、各テーマに基づくワークシートを作成する。そのことにより、自己内対話による主体的で深い学びを目指してほしい。この自己内対話で生じたあなたの意見や疑問は、双方向システムによって、講義で紹介し、コメントする。

図 書 館 の 基 礎

講師　山口（やまぐち）　洋（ひろし）

講義概要・授業計画　司書課程で最初に学ぶ科目として、図書館についての学習全般にわたる最も基礎的な内容を取り上げ、他の科目で学習する内容への方向付けを示します。図書館が存在する意義や役割、機能を理解し、人類史における図書館の歩みの概要を把握し、現状と課題、今後の展望について考える基本的力を養います。

到達目標　1 図書館の機能や社会における役割を説明できる、2 各種図書館の特徴と目的を説明できる 3 図書館職員の役割と資格の意味を説明できる 4 図書館を巡る諸問題に対する考え方を身につける の 4 点を目指します。講義中心ですが、適宜、受講生の意見交換も行います。

内容　1. 図書館とは何か　2. 現代社会と図書館　3. 図書館の歴史　4. 図書館の理念　5. 図書館法規と行政、施策　6. 地域社会と図書館　7. 地域の情報拠点としての図書館　8. 公共図書館の制度と機能　9. 学校図書館の制度と機能　10. 大学図書館、専門図書館の制度と機能　11. 国立図書館の制度と機能　12. 図書館関係団体　13. 住民自治と図書館　14. 図書館界の諸問題　15. まとめ

教科書　今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第 4 版』(樹村房、2022)

参考書　(おすすめ本です。事前に読んでおくことが望ましい)
竹内悊 著 『生きるための図書館 : 一人ひとりのために』, 岩波書店, 2019, (岩波新書, 新赤版 1783)
前川恒雄 著 『新版 図書館の発見』NHK ブックス,2006(版元品切れにつき図書館で借りましょう)

アドバイス　事前に上記参考書を読んでおくと良いでしょう。また身近な図書館の利用や色々な図書館を見学することで図書館のイメージを作ると、学習理解が深まります。

図書館サービスの基礎

講師　坂田（さかた）　和光（かずこう）

講義概要・授業計画　この講座では、図書館サービスの態様を様々な切り口から取り上げ、図書館サービスの在り方について、そして図書館、図書館員の存在意義について学んでいきたいと思います。具体的には、図書館サービスの法規的な枠組み、その意義と理念・歴史、図書館資料の収集、資料提供サービス、レファレンスサービス、ダイバーシティと図書館サービス、図書館協力・連携、デジタル時代の図書館サービス、図書館サービスの課題と展望 を内容とします。
講義を開催する時期が、どのような状況になっているかは予想がつきませんが、何らかの工夫をして、双方向で行うかたちを取り入れられればと思います。また、映像も用いる予定です。受講生の皆さんは、また柔軟な思考で、講義に臨んでいただけたらと思います。
図書館は今や、資料の貸出に特化した伝統的な役割を超越した、知識基盤・知の拠点です。図書館員は、大量の情報の媒介者、ナビゲーターであり、人々の知識欲を受け取り、発展させるプランナーでもあります。社会の変遷を見据え、図書館サービスの新たな役割を追求し、共有することを、講義を通じて目指します。
教科書　今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料　第4版』(樹村房、2022)

参考書　前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』(NHKブックス、2006)
『NHK ラジオ 実践ビジネス英語』NHK出版, 2020.1.

アドバイス　夏の暑い時期の集中講義です。集中力を持続させるために、受け身で講義を聴くのではなく、自らが参加するという気持ちで臨んでいただければと思います。機会を作るようにしますので、考えるところを積極的に披露してください。何事にも問題意識を持ち、前例に捉われることなく、柔軟に、利用者の視点で、図書館サービスを考えてみてください。また、読書などを通して、正しい文を書くことを普段の生活から心がけてください。

レファレンスサービス

講師　豊田（とよだ）　透（とおる）

講義概要・授業計画　インターネットにより誰もが多様な検索をすることが可能となった現在、図書館のレファレンスサービスには「スタンダード」が求められます。この講義では、まず、レファレンスの意義・理論・機能などの基本を押さえます。レファレンスサービスは二つの面があります。利用者の質問に直接に回答する業務と、サービスに備えてあらかじめ知識や情報を蓄積しておく間接的な業務です。前者について、質問の受付から回答に至るプロセスのあり方を分析しながらあるべき姿を考えます。後者については、レファレンスのための情報源の構築、レファレンスの記録とその共有について、実例を見ながら解説します。

教科書　竹之内禎 編著『情報サービス論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；4)(学文社、2013)

アドバイス　「レファレンス」というと堅苦しいですが、質問と回答というプロセスは日常生活でいくらでも経験することです。駅やお役所で、あるいは商品を選ぶ時など、自分がわからないことを訪ねる時の気持ちを思い出してください。

レファレンス資料の解題

講師　豊田（とよだ）　透（とおる）

講義概要・授業計画　レファレンスサービスに用いる資料・情報は、従来の冊子体の辞書・事典類や統計資料から電子形態のあらゆる情報に至るまで、目がくらむほど膨大で複雑です。講義では、これらの資料・情報の種類と特徴・用途を確認し、代表的な資料を具体的に採り上げて解説します。そして、これらの資料・情報が図書館の現場で実際にどのように用いられているか、様々な図書館におけるレファレンス事例をあれこれ眺めながら、どうすれば説得力のある回答の根拠とすることができるかについて考えます。

教科書　竹之内禎 編著『情報サービス論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；4)(学文社、2013)

アドバイス　「レファレンス」というと堅苦しいですが、質問と回答というプロセスは日常生活でいくらでも経験することです。駅やお役所で、あるいは商品を選ぶ時など、自分がわからないことを訪ねる時の気持ちを思い出してください。

情報検索サービス

講師　田邊（たなべ）　稔（みのる）

講義概要・授業計画　第四次産業革命のコア技術であるビッグデータ、AI 、IoT、ブロックチェーン等の到来により、「一億総キュレーター時代」・「ChatGPT 時代」と言われる昨今、図書館のレファレンスサービスやそれを支える検索サービスも変革を余儀なくされている。

また、学術文献は一次情報／二次情報やライセンス／オープンの別を問わず日々出版・公開され、インターネット空間にはソーシャルメディアやオープンデータが時々刻々と増殖し、その裏側では利用ログやセンサーデータが採取されている。これらのいわゆるビッグデータの中からノイズを排除し、ユーザーに必要と思われる情報を網羅的かつ効率的に収集し選別するには AI 等の外部脳を巧みに使いこなすスキルが必要となる。

そのためには、最新技術動向を絶えず観察し、率先して試行するといったアーリーアダプター的な特性が求められる。特に、研究やビジネス領域に於いては、そのスピードと目利きの精度が重要な鍵となる。その意味でも、今こそインフォプロである図書館員が様々な場面で活躍できるチャンスと捉えることができる。但し、昨今の生成 AI（ChatGPT 等）の出現により検索の概念が根底から覆されつつあり、図書館員の仕事も脅威にさらされている。

本講義の前半では、情報検索のしくみや情報資源・情報サービスについて解説すると共に既存の OPAC やディスカバリーサービス等の図書館の検索サービスの課題やアップデートのポイントについて概説する。続いて後半では、これからの図書館およびインフォプロである図書館員はどのような情報技術を用いて、どのような検索サービスを創造し、提供していくべきかについて考察する。

教科書・参考書　購入の必要はありません。以下は一部です。

- 一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／吉井隆明・森美由紀 著『検索スキルをみがく　検索技術者検定３級 公式テキスト』(樹村房, 2018)
- 市古みどり、上岡真紀子、保坂睦 共著『情報検索入門』(慶應義塾大学出版会, 2014)
- 飯野勝則 著『図書館を変える！ウェブスケールディスカバリー入門』(ネットアドバンス, 2016)
- 入矢玲子 著『プロ司書の検索術』(日外アソシエーツ,2020)
- 小島原典子、河合富士美 編『PICO から始める医学文献検索のすすめ』(南江堂, 2019)
- 田中志 著『情報を活用して、思考と行動を進化させる』(クロスメディア・パブリッシング,2021)
- 小林 昌樹『調べる技術: 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』(皓星社, 2022)

アドバイス　本講義では、キーワード検索、フルテキスト（全文）検索、横断検索、統合検索、ファセットなど情報検索に関する知識を習得し、個人演習では実際にいくつかのデータベースを検索し、「ブロックチェーン×カタロガー」や「AI（ChatGPT）×レファレンサー」など最新の情報技術と図書館員のスキルを融合してセマンティックな情報検索サービスを模索します。ラフスケッチで構いませんので、事前にアイデアを考えてきてください。

図書館の資料

講師　岡田（おかだ）　智佳子（ちかこ）

講義概要・授業計画　「司書」とは「書を司る」と書きますが,「書」を「資料」に置き換えた場合,「司書」とは資料を司るひと，と言い換えることができます。では、「資料」とは何でしょうか？　「司る」ためには、まずは「資料」とは何であるか？をしっかり理解しなければなりません。「資料」というものは時代とともに変化するものですが、特にコロナ禍は、紙媒体が中心であった図書館資料における電子媒体資料やリモート資料へのニーズを一気に顕在化させました。「資料」の知識のアップデートが必要です。
この講座では、図書館の資料全般について、その種類、歴史、出版と流通、選択と蔵書構築、保存管理と利用方法等について学びます。

教科書　馬場俊明 編著『図書館情報資源概論 新訂版』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8)(日本図書館協会、2018)
このテキストにそって進めます。できれば購入が望ましいですが、必須ではありません。

アドバイス　ぜひ、お近くの図書館に行き一利用者として様々な資料に触れてみてください。具体的な資料のイメージがあればあるほど、実践的な学修の助けとなるでしょう。

資料の整理

講師　藤倉（ふじくら）　恵一（けいいち）

講義概要・授業計画　図書館の仕事は、外から見ると貸出・返却やレファレンスのような対人サービス（直接サービス／パブリック・サービス）ばかり注目されがちですが、利用者に適切な資料や情報を提供するには、情報資源（本や雑誌、CD や DVD、電子資料など）を収集し、整理しておく必要があります。
無数にある情報資源の中から利用者が必要なものを呼び出せるように「データを作成」し（目録記述）、それらを適切に配置・提示するために「内容に応じて分類」する（主題分析）という作業は今も昔も図書館の重要な任務のひとつです。これらの作業は直接サービスに対して「間接サービス／テクニカル・サービス」と呼ばれます。
この講義ではこれらの意味と必要性、歴史的経緯、現代の図書館における状況および近い将来予定・予想されることについて取り扱います。

教科書　那須雅熙、蟹瀬智弘著『情報資源組織論及び演習 第 3 版』（ライブラリー図書館情報学 9）（学文社、2020）

参考書　※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会、2006）
日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂 10 版』（日本図書館協会、2014）
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第 4 版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス　整理業務は、利用者の目からは見えづらい「縁の下の力持ち」の部分ですが、図書であれ電子情報源であれ、適切な目録と分類がなければ情報を探すことはできません。なるべく身近な話題や新しい話題、珍しい資料の紹介なども交えていくので、どうぞ整理業務にも関心を持ってください。

資料の整理演習

講師　藤倉（ふじくら）　恵一（けいいち）

講義概要・授業計画　整理業務の重要性は「資料の整理」で講義する通りです。この演習では「資料の整理」の講義を踏まえて、業務の実際にあたってどのように整理するか、(1) 日本目録規則（NCR）(2) 日本十進分類法（NDC）(3) 基本件名標目表（BSH）といった各種のツール（道具）の使用方法を中心に、初歩的・基本的な実践能力を身につけます。
演習は原則として複数人のグループで実施します。

教科書　那須雅熙、蟹瀬智弘著『情報資源組織論及び演習 第 3 版』（ライブラリー図書館情報学 9）（学文社、2020）

参考書　※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（日本図書館協会、2006）
日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂 10 版』（日本図書館協会、2014）
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第 4 版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス　整理演習は小難しい用語が多く、膨大な規則や表を前にすると身構えてしまう人が多いですが、実は基本的な使い方さえおさえてしまえば後はツールを参照しながらの作業です。難しいことと考えず、肩の力を抜いて、《知識の宇宙》を散歩するような気持ちでいきましょう。

児童サービスの基礎

講師　西巻（にしまき）　悦子（えつこ）

講義概要・授業計画　この講義では公共図書館ならびに学校図書館における児童を対象とするサービスを中心に講義を進めます。児童サービスとは、人が生涯にわたって本に親しむことができるよう児童と本を結ぶ、図書館が提供する図書館サービスの一つです。そこで、本講義では、児童向け図書資料への理解と子どもと本を結びつける技術の習得をめざします。前半は児童サービスの意義、児童室の運営や業務、児童図書や児童サービスと児童図書館の歴史、児童図書館員の業務や児童サービスの方法について講義し、後半はブックスタートからヤングアダルトサービスに至るまで発達段 階に応じた読書支援活動のうち「読み聞かせ」演習や、ブックトークシナリオの作成および読書のアニマシオン体験などをしていただきます。演習および体験活動については 1 日目の最後に説明します。
なお、本講義で「児童」とは、児童福祉法第 4 条、児童の権利条約第 1 条や『 IFLA 児童図書館サービスのためのガイドライン 0 歳から 18 歳』に基づき、 0 歳から 18 歳までの子どもとします。子どもと本を結ぶ 公共図書館および学校図書館が行う児童 を対象とした サービスについて講義します。

1. 児童サービスの意義と役割および児童観の変遷
2. 児童サービスと児童図書館の歴史
3. 児童図書館員の業務
4. 児童資料の種類と特性および児童サービスの方法
5. 読み聞かせ演習
6. ストーリーテリング・読書のアニマシオンおよびブックトークの演習
7. ヤングアダルトに対するサービスおよび特別な支援を必要とする児童のためのサービス
8. 児童サービスにおける IT 化対応および今後の課題

教科書　西巻悦子著『児童サービスの基礎-子どもと本をつなぐために』(近代科学社, 2022)

参考書　アリアン・ウルフ著・大田直子訳『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳「深い読み」ができるバイリテラシー脳を育てる』合同出版,2020.

アドバイス　講義は教科書に沿って展開します。読み聞かせ演習の資料はご自分でご用意いただき、 2 日目の演習日にお持ちください。聖徳大学川並図書館の児童図書室「世界の絵本コレクション」を是非、ご覧ください。読書のアニマシオン体験の資料はこちらで 準備します。

図 書 館 特 講

講師　野中（のなか）　博史（ひろふみ）

講義概要・授業計画　この講義はメディア・リテラシーの修得を目的とします。メディア・リテラシー(media literacy)という言葉の概念については、「情報を評価・識別する能力」、「情報を処理する能力」、「情報を発信する能力」などといった解釈がされていますが、この授業では「情報を評価・識別する能力」という意味のメディア・リテラシーについて、以下の順に説明・考察していきます。

1. 表現の自由の意味と意義
2. 報道の使命とニュースの価値判断
3. ニュースの機能と効果
4. 世論形成の仕組み
5. 報道と人権①名誉棄損と免責
6. 報道と人権②プライバシーの侵害と免責
7. 報道と人権③人権問題をめぐる判例の考察
8. 報道と人権④差別用語・ヘイトスピーチ

参考書　吉見俊哉　著『メディア文化論』(有斐閣アルマ、2012)

アドバイス　夏期講習は肉体的にも、精神的にも消耗戦です。しかし、成し遂げたものにしか分からない満足感と充実感、そして何より知的財産が得られます。そのような知的財産の伝播と社会的利益との関係を考察しましょう。